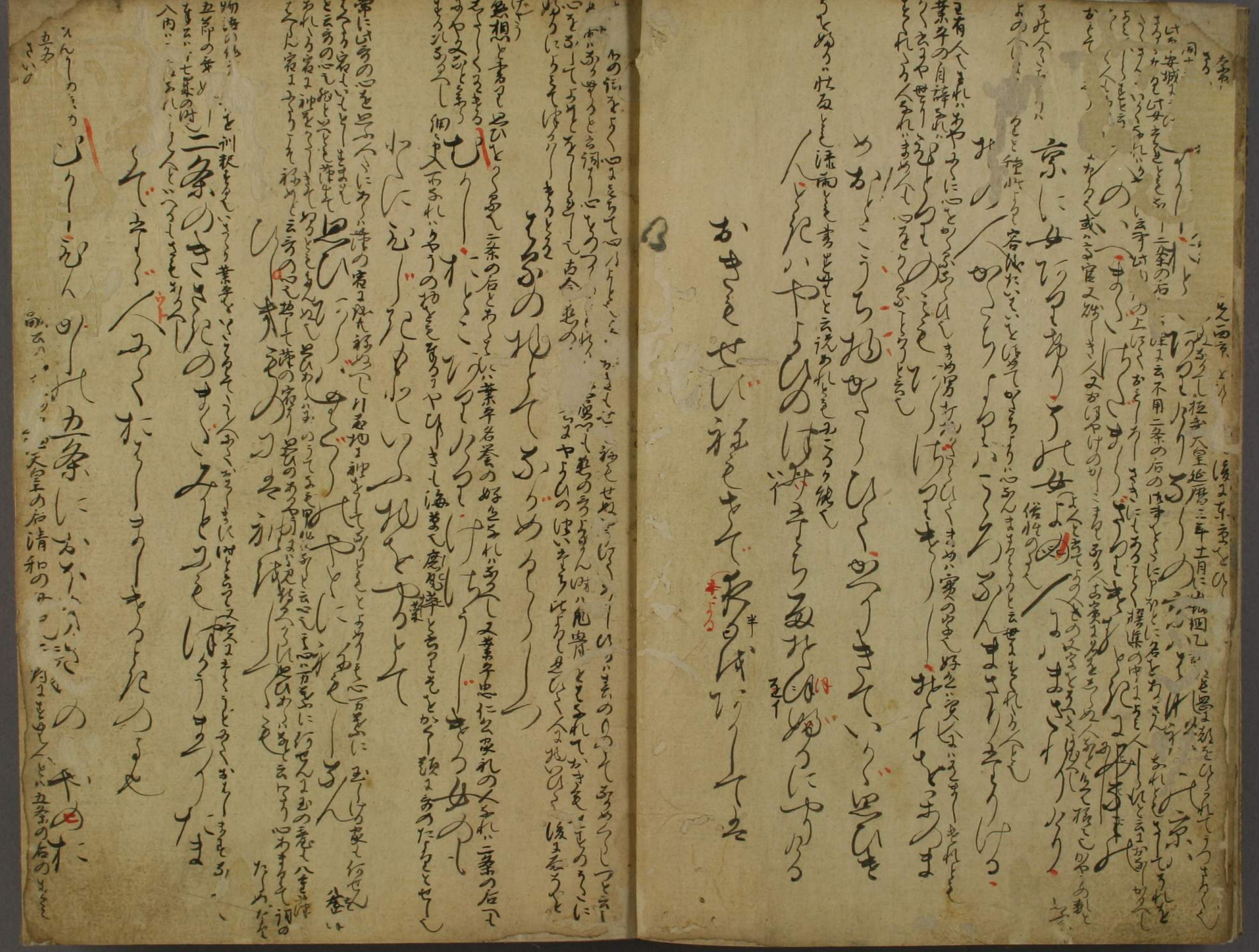


[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちくよめる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

近衛司の弓箭と第一雷鳴陸奥作とされば業平さもあらばや一種
（まさもいく）
肖柏説は只今
あまたにてとゝ

産の子し人をやうにもてし
とりこ

清水寺

源跋文選まさるあり　源跋寺の住侶仕行せ
尼てされば男の為きく　四ゐてし年老好文れ

つまきりやうしあるを　ゆきをゆくれば

清水寺　補陀洛山　多宝塔　四の八丈
師道とゝ　ゆくれば

とゝ　住侶は源跋寺
ゆくれば

ゆくれば

ゆくれば

いて京にまをけせうにうやかいかたち
（第四段の宴見元九ガ）　（卜部と云云）
ノ名にはぬの大伴さまぐ
まいり給ふ　（卜部と云雲客の所）
てとゝめてとゝもしたまうてりかたもと
おにとゝいふ是りまぐいとわうてきたれ乃
きぐにおかしけりたとや
（葉平左遷の事沙汰する事ありなどの又ハ歌の古語を経しの多く給ハり不用之定家の奥ヲ可抜初花言葉ヲ也ト沙汰所ヲ山ハ也ト抜懐可思惟之歌撰の詞ヲ也ト云）
（常陸説ニ東国ノ国の名）
京にすまるとあるとイ　（ニ戸ノあとヒ）
つまにいまりをれいせをとるとはひものうも

（昭宣公一ノ子元ノ）
（卜部と云雲客の所）
（ハ）
（ハ）
（ハ

業平の摂中将

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

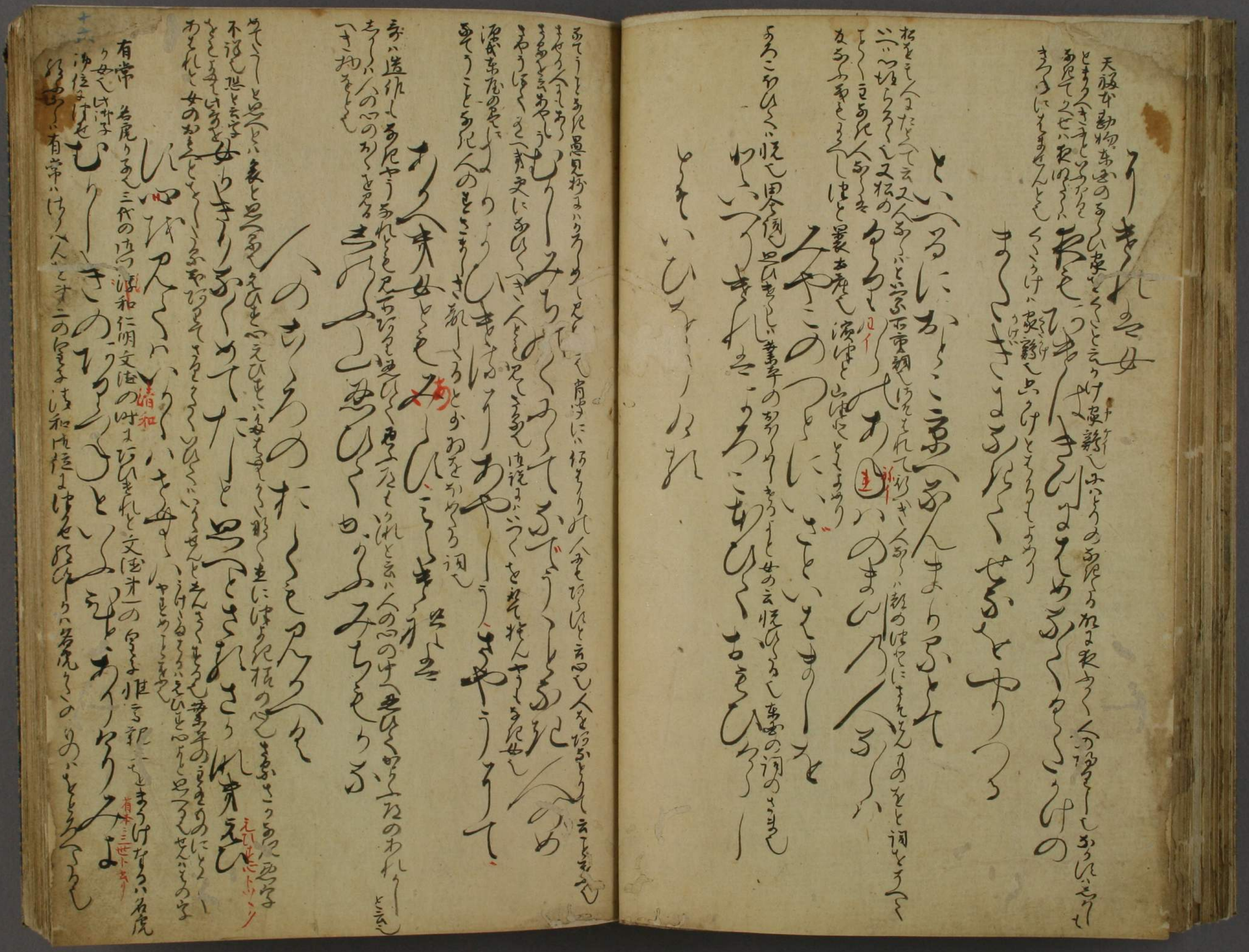
[illegible]

さりける
すゑ[illegible]おとこあり[illegible]へゆきまうてきけるあひだ
[illegible]にみちよりいひおこせける
[illegible]は雲みにふるとも
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又はなどうは今日女のうれひなどとれと云ふこと
なりとは歌のよはひなりとれと云ふことはと云ふ女のわ
ゐのうちなりとそれと云ふことはいとうれしきことそ
のうちなりとそれとも云ふ女のわ
ゐのうちなりとそれとも云ふ
ゐのうちなりとそれとも云ふ

こしいはてい雪とまし　ゆつとうまし

定家卿　庭のかたにはをいはとはを花とみる雪ふるまてはまそふらん

きしいはをあらはとわくらんとつんまし

物とをの女しるまつ　思見抄に心をきくまくまくま

はるのにめをさましてのち

とうめうきれいかおくこゝぬし

此天モハ石と云心をうけ承たにそなて近分ハうきこの凡のそもしたかし凡そやさかにきよめん
やうにうけとをそれをくにうろうあるとをにて近分ハうきこの凡のそもしたかし凡そやさかにきよめん
にいうろうあるとをにて近分ハうきこの凡のそもしたかし凡そやさかにきよめん
分へきやうかとも

あまをとめ

はるみるこのかせをやこたかと

市者の間

とよやうきをおそまるこおなこあるひとをふんいも

きよし

二

愚見 市伊人宿学と云て礼記と云ハ孔子ハ大和なるかぶ女をとこの家にあるかぶ女をやゝ
ハとも云ハ孔子ハ大和なるかぶ女をとこの家にあるかぶ女をやゝ
文ハ人ハ孔子ハ大和なるかぶ女をとこの家にあるかぶ女をやゝ
京東ハ人ハ孔子ハ大和なるかぶ女をとこの家にあるかぶ女をやゝ
うしし病ハ人ハ孔子ハ大和なるかぶ女をとこの家にあるかぶ女をやゝ
ハ書

二十一

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二十二

一度別て後ようき物に見えそなれをなれさせ
ありしかわかれ又と思ふ
う者ふ〳〵人といふ
ものを思ふ者

[illegible]

[illegible]

[illegible]

田舎ひとびとに、さまざまにおもひよせ、思ふこころ、仮寝の夢のうちにもとゝ、

二十三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

と、ひけまとおとこうつまのりをんふいとうふ

[illegible]てきうよきちてそをひゆきはえをひは

うてしこれのあれとこころよゆ（首金に）よりうこ

おひいふ[illegible]

あるとけろ、そにちをひのちてかれはまよ

あむおをそてうまるるをとるめる

ちうあ、まそきしそめふ

[illegible]

とうきそこにはるこにはり

あこしとあまりとひこれはあるきはあるまはるはあるまるはるはるは

二条の后の業平卿を後の后なれいまのあるべきすべ
きのるべきかとまるべ
けるはまあるべうきくひるべまるべ
まるべけてしまるべ
ありけるとまるべ

むかしおとこ女のもとにしばしばいきけり 質 賢 質とうるはしくいとはなれ月のあるに水と花とをみるとてかなたをうちやりてなれをうちやりてあるべきよりもあるべうきもあるべゆる

つれなくてひのうけるをんなをうづみ

女の家にをりて地にはいるべきひとのうちにはのうちにはをんなとなりにはのうちにはをんなとなりにはのうちにはをんなとなり

上にいれ加賀の秋とよろづ庭に花はなかれ歌とは二条院の時しかるべきまきれは見ひろ五とそうけはかく
堂と云ふ寺にて後石山の
時安房の国へ流され給ふ時吸筆し給へ御ん七の事と云

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冊傳 迷
カシツノ文字
ロニドヒキ
ひとゝ
ゆきて
百字名字

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西院のみかどは清和天皇の御子にはあらねどかの帝をば遠ざけ奉りて大原野にはあらぬ所にかくれ給ひて西院の帝とぞ
申しける西院のみかどは清和天皇の第九の皇子にはあらぬ御子なりけり
詞大伴
桓武第三皇子
西院四條北
西大宮東
又謂清和院
おのみこうせおはしまして
ふ事はなかりけるとこれはこれ
うちふきてやみぬるかぜ
業平のもとと同車せるを世ありとたて
といふ人これをば
とこの事と世事とはこれより

きてとゝろふまめくあるにはのいろもとゝ
つゝて世のゝろまにいまゝりもるばゝろまゝ
人こゝろのやすひゝやすひんとゝしち
ふんとゝろとゝのもとにおとこよめる
今累子内親王を葬送するとて北野へ出でたるに雨降りぬ
命の消ぬるとぞ思ひ侍りける
やはり式部卿の宮
あはれとゝろくして世をゝろ清和世者五帝の
ゝ
ゝ
ゝ

此古藏の足をれい芝住不藏の後

源平盛衰記 天白主 負 五王 舉順

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和歌にかたりそへてよませたる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人の国 絶遠仕 にいかふ なつかし

をゝとあさ秋とおもひくわれはなりはは屋

をこそ詩一月不見如三秋こゝ

月日のめぐりきつゝとまれやゝ

いとゝ思ひくふん侍る世中の人のうろ

目録ノ文

こゝろさい秋ふるとも

めつらしくこそなりにけれ

とはれぬ

もゝ

とゝ

ふきれいかをうけるさ

むしのこゑ初ねてゝ

さをしかのこゑにいとゝ

さをしかのこゑにおどろかれぬ

ちのゝをまさりつゝ

大ぬさハ秋の異名なり

おほぬさのもとゝ

おほぬさのもとゝ

おもへこゝろ

古今

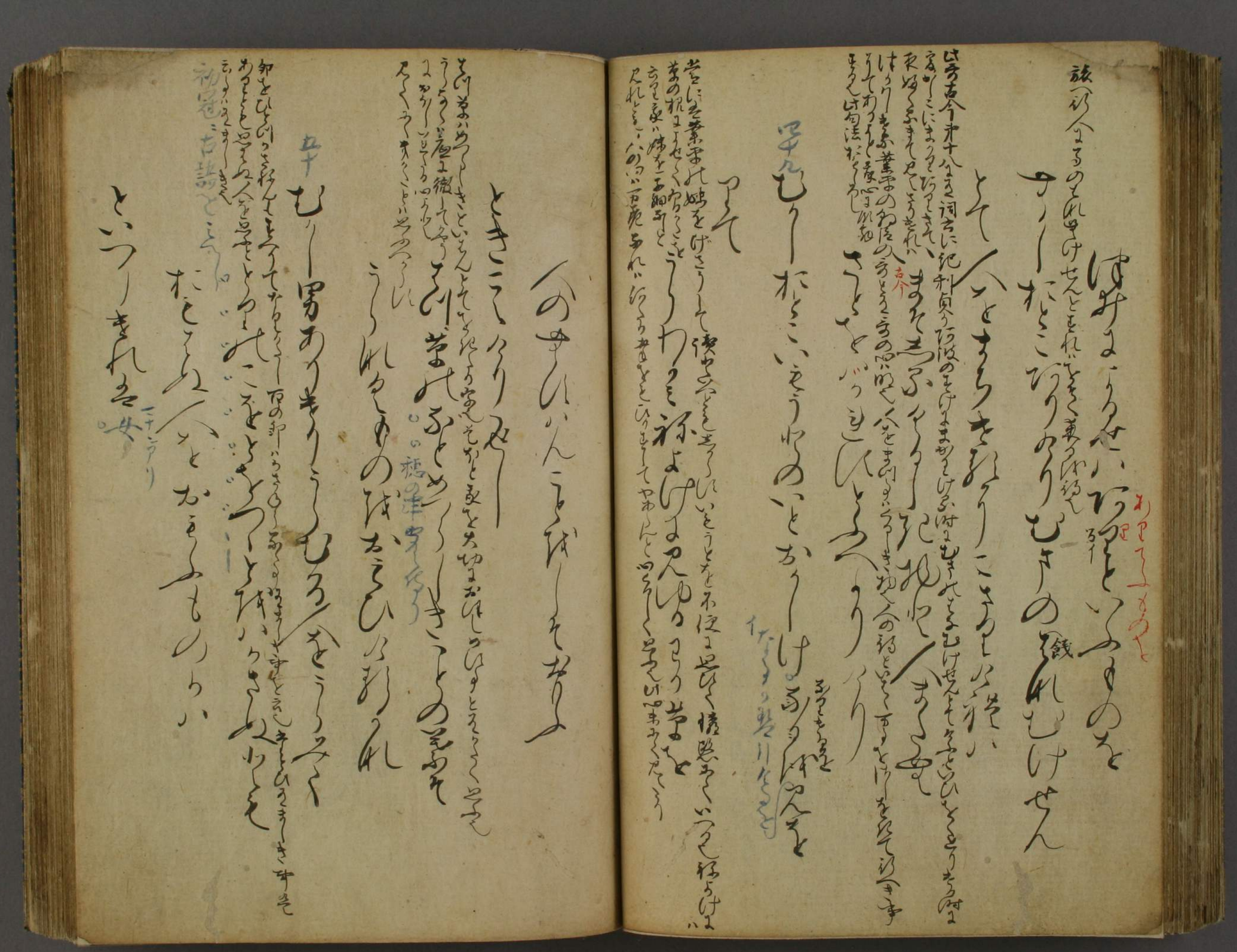
おもへこゝろ

むしのこゑ

大ぬさハ行とこれのもとゝ

古今

おほぬさと名ふ



電光朝露はかなき身をうけ難き世に生れあひ難き
法の道にあひ法華経を一つ聞てもかたし
経伝れんとすれども
[illegible]

又おなじこと

[illegible]

又女郎

経文亦如蓋水隨昏隨暗

[illegible]

物語の作者の詞

[illegible]

又おなじこと

[illegible]

九十一

[illegible]

真名
初五
ウツロヒ枝バ

五十二 むかし おとこ ありけり

和名 粮粽

さすがにとこそせりけれ

飾

五十三 昔男ありけり

五十四

五十五 むかし おとこ ありけり

雑三十五注 [illegible]

五十六 昔男妻にて侍ひしかきて侍ひしを
[illegible]

五十七 むかし男
三条后真名ナシ
[illegible]

五十八 [illegible]

長谷ノ観音ノ御願文ニ[illegible]

五十九 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中将の衣裳とりもちて舟にのりくるほどおよそいうけやく表ウ

といひくきあるきてこゝもきれとまりてふけさ

くりいつらいめんかたもさしに

世はかろ世界とそこの弟子たちの[illegible]

むかし世心はもろ女いそ心ふさけあん男まひも

真名

[illegible]ふと男といひいてん尼そこらをふさに

和名 加[illegible]

[illegible]子三人をよひくのかり

ゆりのこふさけふをいつくやあさつゆふ

[illegible]

[illegible]男そいてうんとていまろに

これ女きこえとめこと人をいとなさけふ

[illegible]

[illegible]

いてこれを五中将よあるを女てこうふと男ふ心ひ

[illegible]

[illegible]あるきいきひくみちみくせまれ

くちとをてかくるふんなをとい心なをあれ

ひてきて移るきりはくのちなをこみしさりれい

女たをこのいをりいきてういまをきれをなをこほり

よをく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冬嗣 ― 長良 ― 高子 ― 清和后陽成母
　　 ― 順子 ― 良房
　　 ― 明子 ― 後冷泉后

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

疾

酒壺

景茅うの屋

[illegible]

新古今

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

真名書子 相模 名し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大神宮へ参すべきにこそ侍れ　掲焉也　まことに文明九丁酉三月五日　五百九十八年　奇妙なり　元亨
元年辛酉　七百十九年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

有本たゝ一き

[illegible]

山谷題昼夜詩　恵果畑雨き戸座永沸沼洞庭欲喫扇毋沒去加人足毋青と詩て見る可し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

動云作高文法井一毋猶五位紀静子岩尾女四郎号小野宮小野にすまし後にはその子を中し

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おもしろきまりよりはよりくくなりとに
よみ人の名しらず（業平の後妻なるべし）
ぜんせいきの
今のまとまりのみちさのいへなの井人の橋
ともにおもしろし　井なの井にかつ井く
そばかつてうけつさてうこまりをみふく
よみ人しらず
春の集ゆをうぐいすの花のかくれをとかをひてうぐいす
うやうめれをうるわく
うぐいすのはるかすみ
おもてにいつくの花ぞとも
くらのとりうんと

ちはやぶる
ちはやぶる
ちはやぶる

きまゝ、ふみこれのくまむけるものをかをりてあるより
はのかをりにいきつかはたゝ、ふくるよりそはつる花
をそなへたゝまゐりきれいあるむまれうこのよりたた
てまつりつるなり

高野よりの帰りに我をきにけり
高野よりの帰りに我をきにけり
高野よりの帰りに我をきにけり

一とせに見わけきしひきみまそ
やとをしへ
又南のゝ三月十日のまつ
かつらにいつせをまつ見わかるまそきけの
こりのくりしてオ
とし十日の月をまつ
かつのよめ
夏ヶ月十七日の月をまつ
かつらにまつ見月乃まつ
つのもにまそ

みこにかはりてきたりしかばの
後撰に[illegible]物語の後に[illegible]
[illegible]
やまのてるはつかはなとこそ
[illegible]
みはせてはひとりこれたのみこ
[illegible]
の[illegible]にかりまくらにもまつらるるかな
はつうまの日[illegible]
[illegible]
[illegible]

雪ぬるわけてきこばとは
そらんじるもあるべし

五十

いかゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いさゝめのかしにちりぶしを砂のかずとしてちりぬる人を法遠ひ天成法師

まつの海のちりとるとにあらしをいさこのみの

みてしらしいかゝもの紀のたきゝ尺ちりぬんや

三成始ちりとることゝ為ちりて勝ちりとを法師と俗を参用こゝやちり法師ちりの法師ちりの法師ちりの法師

いとくのちりてあるにさの寺尼ものちりとこゝふる

ふるさ二十おひろさ五ものちりふるいしよりそて

さゝきをゝいをはゝ後所んやうにふをちりきれ

ちれをたのうえにけ（後所）ちりよりかきさてけい

てをちいしちりとるれいしようはちりをまれい

せうがゝしちりとれかいをみくこれかつてこ

ふれしよみふをたのうちよまひ手のちりのうきまりしよを（行きをんちりを）

ちりをしかをもとうちりをしかをもとうちりをしかをもとう

のたとへ

とうとうとはかやの皮

なんいとさうしほのめのこゆゑ

ほてうとうとはみふのふこにてあるひく

いろのうちにてきとの世界

はれはてるてはてはては

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（人麻呂忘有情）

[illegible]

（六月十五日ころ六月中旬）

[illegible]

（六月中旬炎気の中[illegible]）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（葉室のかたへゆくもろもろ[illegible]）

[illegible]

秋風[illegible]

[illegible]

本歌ゆりもくえぬこれかけ迄

[illegible]

（お送のやうにこれとこそ[illegible]）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きりたる芦湯の煙なるとぞうけたりしゆえに
ゆいてあるとかりうれはなりあり
ときこそよひうしろの方中毎ぬちりしまさもちてあり
藤原良近卒之年とぶりしかども宮仕をしてゆのたとえて
ちりといつるふせ（宮人の装）うとはひとみくれのはい
（初年の装束）ひつ〜まうけ〜さうあるふさけあり〜みく
かめにされをさせりそのふのなるにあやし
来ちれ花ひつるとかりうれの三尺六寸はら
つるふ華有あるうれをたいみくようもうんそて
かるにひつるしれ（業平カ）ちるけ（まけ）ふるあ〜ぶたまふとき
きてきくり来れをかるふ〜くようませあるりとり
（はかるまの月花とたとう）うとい土〜さるとりかれをとまむあれと三年
てよませきれいかふ舞
藤原忠仁公の栄花の一門はとうかりうれ（のトケ）
はうるとれ乃土〜いにまるまる〜おかこ
（はかの位置と今序の品ろうと）
ありしにまさう始れうけうる
ふかるかくしよるとといひきれいかれ見おるれ
ふい花のはりにうまるそかつて藤氏のたとに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

藤原敏行貞観九内記十二年任大内記[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みちのほつてうこそうさいの手ハ東方六千里のあなり　六千里ハ
きんしゅうあくまりとい　右しゆやけの五きしの
いつるとを不去り　右の逆修とこそ　ものの気よりあくまの
はるかなりこれ　この逆修とこそ　ものの気よりあくまの
きはまりなき　ものの　しるしとて　ものの
かくれ　ものの　ものの　ものの　ものの
かくれ　ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの　ものの
ものの　ものの　ものの　ものの　ものの
ものの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

但馬守[illegible]梅壺[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]